

令和 5 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取盲学校

|                  |       |                                                                                                                                          |                                                                                                                                         |                                                              |                                                                                       |                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                          |    |                                                                                                          |  |
|------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 学校教育目標           |       | 視覚障がいのある児童生徒が自己の持つ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うとともに、教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。<br>(ミッション) 自分らしく、一人一人が輝いて生きる力を育てる。(QOLの向上)<br>(キーワード) 「深める」 |                                                                                                                                         |                                                              |                                                                                       |                                                                                                                                                                      | 今年度の<br>重点目標                                                                                                                                                                             |    | ①主体的に取り組む態度の涵養を目指す教育の充実（専門性の向上）<br>②キャリア教育の推進<br>③仲間と信頼関係を深め、協力して生活の質を高め合う児童生徒の育成<br>④チームで取り組むセンター的機能の充実 |  |
| 年 度 当 初          |       |                                                                                                                                          |                                                                                                                                         |                                                              |                                                                                       |                                                                                                                                                                      | 評価結果（ 1 ）月                                                                                                                                                                               |    |                                                                                                          |  |
| 評価項目             | 部科・分掌 | 評価の具体項目                                                                                                                                  | 現状                                                                                                                                      | 目標（年度末の目指す姿）                                                 | 目標達成のための方策                                                                            | 評価基準                                                                                                                                                                 | 経過・達成状況                                                                                                                                                                                  | 評価 | 次年度への方策                                                                                                  |  |
| ①学習指導の充実及び専門性の向上 | 小中学部  | ○児童のコミュニケーション能力の向上に向けた指導の充実。                                                                                                             | ○児童のコミュニケーション能力の向上に向け、語彙を増やすことや、相手への適切な伝え方の指導を継続して行っている。                                                                                | ○児童の語彙が増え、自分の考えを理由を付け加えて表現することができるとような指導が充実する。               | ○国語学習を中心に語彙力を増やすとともに、適切な表現の仕方を習得できるようにする。<br>○授業担当者が児童の考えを理由を付けて発表する時間を意図的に設ける。       | ○語彙、適切な表現（声の大きさ、言葉遣い、言い回し）について小中学部教職員と授業担当者が話し合い評価。<br>A：十分達成。<br>B：概ね達成。<br>C：変化の兆し。<br>D：まだ不十分。                                                                    | ○全学習活動を通じて語彙力や表現の向上の育成を継続的に行ったことで、語彙や文章を書くことに興味関心が高まり進んで辞書を引いたり読書をしたりすることが増えてきた。語彙力の高まりとともに徐々に自分の思いや考えを相手にわかりやすく表現できるようになってきた。                                                           | B  | ○引き続き国語科を中心として語彙を増やすこと、適切な表現の仕方を学習することを通して、児童のコミュニケーション能力の向上を図る。                                         |  |
|                  | 普通科   | ○各生徒の進路希望の実現に向けて、適切な目標設定と効果的な指導に努め、目標達成に向けた学習指導の充実。                                                                                      | ○卒業後のめざす姿は、就労や進学とさまざまな。各教育課程の効果的な運用について教職員間での共通理解を深め、連携して取り組んでいく必要がある。                                                                  | ○教科担当者や進路指導主事と連携し、各生徒の実態や進路希望に合わせた組織的な指導を行っている。              | ○各教育課程の特性に応じた効果的な指導について、教科担当者を交えて協議する機会を設ける。<br>○生徒の主体的な態度を育むための指導、支援の方法について共通理解を深める。 | ○連携に基づいた組織的な指導に対するアンケートを生徒、教職員向けに行い評価。<br>A：生徒の実態や進路希望に応じた学習指導の成果が十分見られる。<br>B：生徒の実態や進路希望に応じた学習指導の成果が見られる。<br>C：成果が見られるが、改善の余地がある。<br>D：取り組んでいるが、十分な成果が見られない。        | ○教科担当者同士の連携や担任と進路指導主事との連携、教科横断的な視点での学習を通して、生徒は自分の進路実現に向けて努力を続けているところである。<br>○生徒の実態について、部科会や小グループの会で共通理解し、生徒や学級について情報交換を行ってきたが、指導、支援の方法について十分な協議に至らず、組織的な指導を行うには改善の余地がある。                 | C  | ○卒業後の目指す生徒の姿を教職員間で明確にし、指導、支援の方法について共通理解を深める。<br>○支援方法について外部からの助言を受けたり、他校の取組を参考にしたりし、進路実現に向けた方策を検討していく。   |  |
|                  | 保理専攻科 | ○生徒が主体的・対話的に学び、目標への見通しを持って粘り強く取り組むことをめざした授業改善。                                                                                           | ○生徒は資格取得に向け積極的に学習している。<br>○科目横断的な学びを深めるため学習内容のつながりを年間指導計画へ記載し、授業の工夫や職員間の連携に活用している。<br>○科目横断的学びに活用できるe-ラーニング教材を理療科で作成しているが、内容の更新等が必要である。 | ○教職員は、e-ラーニングを効果的に取り入れた授業を実践し、科目横断的学びを深める研究に部科全体として取り組んでいる。□ | ○e-ラーニング教材の内容を更新・追加し、授業に活用する。                                                         | ○e-ラーニング教材の作成状況により評価。<br>A：完成している理療科目の教材が8割以上。<br>B：5割以上。<br>C：3割以上。<br>D：3割未満。                                                                                      | ○全19科目中、11科目が完成しているか、最終作業中である。来年度使用する予定の科目については、全てこの11科目に含まれる。                                                                                                                           | B  | ○未完成の科目については、引き続き作業を進める。完成した科目について、科目間連携を意識した効果的な活用方法を部科全体で共有しながら研究を進める。                                 |  |
|                  | 教務部   | ○各部科・分掌と連携を図り、円滑な日程調整と連絡、適正な授業時数の取扱に努める。                                                                                                 | ○教科によって、標準時数を下回ることがある。                                                                                                                  | ○全ての教科で授業時数を確保し、標準時数以上で実施する。                                 | ○授業振替、曜日振替を行い、過不足がないようにする。<br>○時数集計表を活用し、授業時数を提示して、調整を行う。                             | ○授業時数による評価。<br>A：全ての教科で標準時数で実施できた。<br>B：ほとんどの教科で標準時数で実施できた。<br>C：ほとんどの教科で標準時数を下回った。<br>D：全ての教科で標準時数を下回った。                                                            | ○2学期末の時点ではあるが、ほとんどの教科で標準時数を実施できた。                                                                                                                                                        | B  | ○次年度も曜日振替を実施するとともに、授業振替を行い、時数集計表を見ながら、授業時数の過不足を担任や教科担当と連携しながら調整していく。                                     |  |
|                  | 教育研究部 | ○児童生徒の資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントに基づいた授業づくり。                                                                                                 | ○昨年度、各教科学習の年間計画が一覧となった単元配当表を基に、教科の担当者間で連携し、生徒の主体的な学びを深める実践に取り組み始めた。今年度は、教科の担当者間の連携をより強くし、さらに深まりのある学習へとつなげていきたい。                         | ○児童生徒の資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントを理解し実践する教職員。                    | ○校内研修で、カリキュラム・マネジメントについて理解する。<br>○年間配当表を作成し、1人1授業実践していく。                              | ○児童生徒の資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメント・マネジメントに基づいた授業づくりの成果を感じたと答えた職員アンケートで評価。<br>A：授業をしっかりと実践することができた。<br>B：だいたい授業を実践することができた。<br>C：授業の計画を立て実践しようとしている。<br>D：あまり意欲的に取り組んでいない。 | ○アンケート結果は①校内研修、グループ研修等を通してカリキュラム・マネジメントの理論を理解した→79.5%②グループ毎の研究授業や日々の実践に取り組んだ→74.4%③児童生徒の資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントに基づいた授業づくりの成果を感じた→53.8%である。カリキュラム・マネジメントの理解と実践は達成しつつあるが、成果を感じるまでには至っていない。 | C  | ○2年目に向けてさらに実践を積み、児童生徒に資質・能力を着実に付けていけるよう、グループ研究会で実践の共有や評価のあり方などについても十分検討する。成果と課題を評価する上での参考となる具体的な実践例を示す。  |  |

様式 3

|                  |     |                                                   |                                                                                                                                |                                                     |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                            |   |                                                                                                                                    |
|------------------|-----|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ②<br>キャリア教育の推進   | 支援部 | ○自立と社会参加に向けて、キャリア教育の充実を図る。                        | ○小学部から成人まで様々な年齢層の生徒が在籍し、将来の夢、目標も多岐にわたっている。<br>○将来設計を具体化し、進路実現に向けて、個に応じた学習や体験活動を進めている。                                          | ○児童生徒がキャリアパスポートにあげた目標の達成に向けて、主体的に取り組んでいる。           | ○進路学習や実習の目標設定にキャリアパスポートの活用を推進する。<br>○キャリアパスポートの目標を教室掲示する。<br>○児童生徒が進路学習や実習における自分自身の評価を把握できるように報告会や振り返りの学習を設定する。                | ○体験活動や進路学習等のキャリア教育を通して、キャリアパスポートの目標達成に向けて努力したか、児童生徒及び教職員のアンケートにより評価。<br>A：努力した児童生徒が100%。<br>B：努力した児童生徒が80%。<br>C：努力した児童生徒が60%。<br>D：努力した児童生徒が40%。                                           | ○キャリアパスポートの閲覧強化期間を設けたが、アンケートで、あまり閲覧・活用できていないことがわかった。<br>○実習等の体験活動を通して、自分の進路や適性について主体的に考えたり行動したりできるよう環境を整えた。<br>○個々の生徒の進路実現に向け外部模試や公務員模試等を実施した。                             | B | ○児童生徒の目標達成や意識の向上を図るため、キャリアパスポートの積極的活用をすすめる。<br>○多様な進路に対応するために、各種模擬試験や実習等の体験活動を充実させ、進路実現を目指す。                                       |
|                  | 寮務部 | ○社会参加を意識した人との関係づくり、協力して取り組む力を育む。                  | ○個別の教育支援計画のもとに、舎生一人一人の障がい特性を理解し、社会自立へ向けての指導支援を行っている。継続した取組で、主体的な行動が増えている一方、コロナ禍の影響もあり、他者を意識した場面や言動が少なくなってきたおり、集団生活において課題も見られる。 | ○舎生一人一人の実態を随時職員間で共有し、舎生の他者を意識したあいさつや言葉かけ、行動等が増えている。 | ○生活の中で、他者を意識した場面をできるだけ多く設定する。<br>○寄宿舎における行事・活動等の企画・運営で、舎生が互いに協力しながら内容を考えたり運営したりする場を設定する。<br>○家庭・学校等との連携を軸とした主体性育成のための指導・支援を行う。 | ○他者を意識した姿に向けた働きかけにおける評価。<br>A：他者を意識した言動への働きかけの成果が十分に見られる。<br>B：他者を意識した言動への働きかけの成果が見られる。<br>C：他者を意識した言動への働きかけの成果があまり見られず、改善の余地がある。<br>D：取り組んでいるが、成果が見られない。                                   | ○日々の引き継ぎやケース会等で、生徒の共通理解ができていた。<br>○舎生同士と一緒に活動する機会が増え、行事だけでなく食事や入浴・洗濯の場面などで挨拶や相手を思いやる言動、自分から話しかけることが増えてきた。実習のことや入浴時間・スポーツなど、学校種を超えて他者を意識して声をかけあっている場面も見られてきたが、意思疎通の難しさもあった。 | B | ○継続した実態の共通理解と、支援のあり方については十分に協議・確認を行う。<br>○舎生同士がともに活動したり協力したりする場面は、引き続き継続し、意識して設定していく。<br>○盲生と聾生と一緒に活動する場合は、必要に応じて職員が手話通訳などの仲立ちを行う。 |
| ③<br>仲間と協力する児童生徒 | 指導部 | ○児童生徒が主体となり、仲間と信頼関係を深め、協力しながら運営する児童生徒会活動の推進。      | ○行事担当は児童生徒の立候補によって決まっているが、話し合いの時間が十分ではなく、教職員がリードして行事を進める場面もある。                                                                 | ○児童生徒が話し合いによって行事の内容や役割分担を決め、当日の進捗などの運営も児童生徒主体で活動する。 | ○児童生徒会行事等の前に担当児童生徒の話し合いの時間を確保する。<br>○教職員は児童生徒の話し合いを見守り、過度に介入しないようにする。                                                          | ○児童生徒にアンケートを取り、その結果を元にして指導部教職員で話し合い評価。<br>A：十分達成。<br>B：概ね達成。<br>C：変化の兆し。<br>D：まだ不十分。                                                                                                        | ○行事前には児童生徒の話し合い活動の時間を設定し、当日の運営も教職員がサポートしながら児童生徒主体で行った。<br>○児童生徒会行事（交流会、壮行会、募金）について事後の児童生徒アンケートの結果、事前の話し合い、当日の運営が主体的に活動できたという回答が多かった。                                       | B | ○来年度も引き続き児童生徒が主体となった活動となるよう、事前の話し合いの場を設け、児童生徒のサポートを行う。                                                                             |
| ④<br>センター的機能の充実  | 支援部 | ○積極的に情報発信してセンター的機能の周知を図り、視覚障がいの理解啓発、指導支援を充実、推進する。 | ○おたよりやホームページでの情報提供・公開に努めた。<br>○依頼に応じ、教育相談や視覚障がい理解学習支援等をすすめた。親子教室を継続的に実施した。<br>○夏と冬に本校を会場に特別支援学級等とのふれあい交流会が実施できた。               | ○積極的に情報発信をしてセンター的機能の周知をし、校内の人材を活用した見え方等に応じた支援を進める。  | ○弱視特別支援学級10校と盲学校をオンラインでつなぎ、タイムリーでニーズに合った支援をする。<br>○ホームページを定期的に更新する。<br>○保健師へ乳幼児支援の周知をする。                                       | A：校内の人材等を活用し、ニーズに応じた支援活動を推進しながら毎月定期的にホームページやおたよりで視覚障がいの情報発信をした。<br>B：校内の人材等を活用し、ニーズに応じた支援活動を推進しながら学期に2回以上は情報発信をした。<br>C：ニーズに応じた支援活動を推進しながら学期に1回情報発信をした。<br>D：ニーズに応じた支援活動を推進しながら年2回は情報発信をした。 | ○県内弱視学級とGoogleClassroomでつなぎ全5回の視覚障がい教育ミニミニ研修会を実施した。<br>○8月と12月に弱視学級とのふれあい交流会を実施した。12月はリモートでの参加も1校あった。<br>○依頼を受けて視覚障がい理解学習への協力、支援グッズ等の展示・紹介を行った。                            | A | ○ミニミニ研修会の反省をもとに、よりニーズにマッチした研修会の実施方法、実施内容を検討する。<br>○視覚障がい乳幼児支援の充実のため、外部講師を招いての研修会を夏季休業中に実施するとともに、特に全盲児の発達支援について研修を充実させる。            |
|                  | 総務部 | ○鳥盲ボランティアとの活動により地域との連携を深める。                       | ○鳥盲ボランティアの登録はあるが、しばらく活動はできていない。昨年度も環境整備の際に計画をしたが中止となった。地域の方との連携を深めたい。                                                          | ○鳥盲ボランティア年間予定に沿って、児童生徒とともに活動している。                   | ○学校の要望と地域の方の願いを聞きながら新たな鳥盲ボランティア会員を募集する。<br>○お互いに有意義な活動となるよう活動内容を計画して実施する。                                                      | ○鳥盲ボランティア活動状況で評価。<br>A：年間予定に沿って活動できた。<br>B：概ね年間予定に沿って活動できた。<br>C：年間予定の半分程度活動できた。<br>D：活動したが、予定通りにはできなかった。                                                                                   | ○体育祭にも参加していたが、年間の予定に沿って活動できている。ポスターを近くの店などに貼り募集したが、新たな登録者は今のところない。                                                                                                         | A | ○地域との連携を深めるという意味で募集の方法をさらに工夫し、新たな登録者や活動内容を広げていく。                                                                                   |

評価基準     A：十分達成   B：概ね達成   C：変化の兆し   D：まだ不十分

〔100%〕     〔80%程度〕     〔60%程度〕     〔40%程度〕